

2014年9月実績概要（メモ）

（2014. 10. 16）

1. 生産動向

イ) エチレン 492, 100トン

前月比 ▲16. 1% (▲94, 300トン)
前年同月比 ▲4. 4% (▲22, 600トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲3. 2%	—
定修要因等	▲14. 2%	▲10. 2%
能力増減	—	▲5. 6%
稼働率変動	+1. 3%	+11. 4%
生産増減率	▲16. 1%	▲4. 4%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月92. 3%→当月93. 6%←前年同月84. 8%

定修プラント：前月1社1プラント→当月2社2プラント←前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減と定修規模差から LD、PP、SM、塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EO、EG、AN、SBR、トルエンなどの12品目がマイナスとなった。HD、PS、BRなどの5品目は主に稼働率要因からプラスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等から LD、PP、EO、EG、BR、トルエンなどの7品目がプラス。HD、PS、SM、塩ビ樹脂、SBR、ベンゼン、キシレンなどの10品目はマイナスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LD、HD、PP、PS）

イ) 生産

前月比では、主に稼働率要因から HD、PS はプラス、LD、PP は定修規模差と稼働率要因からマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因から LD、PP はプラス、HD、PS はマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

前月比は、前月は夏季休暇に伴い出荷が減少したが、当月は4樹脂揃って大幅なプラスとなった。

前年比では、LD、HD では輸入品の増加影響から主用途のフィルムを中心に出荷が低迷したこともあり、LD は微増、HD はマイナスとなった。PP は射出成形分野における川下ユーザー産業の生産が前年を下回る傾向にあるが、フィルム分野等の出荷増加もありプラスとなった。また、PS では雑貨産業分野での出荷が増加しプラスとなった。

ハ) 輸出

アジア域内の需要に関しては原料先安感から様子見の状態が続いており、前月比で HD、PP、PS がプラスとなったが、前年比では4樹脂揃ってマイナスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、HD、PP、PS の4樹脂で減少した。在庫率(季節調整済)では LD は上昇、HD、PS は低下、PP は横ばいとなった。在庫水準としては、LD、PP はやや高め、HD、PS はほぼ適正水準となっている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率 (単位:ヶ月)	
		8月末	9月末
LD	▲16, 100	3. 4	3. 6
HD	▲3, 600	2. 8	2. 5
PP	▲7, 900	2. 9	2. 9
PS	▲2, 600	1. 2	1. 1

以上